

2年生 赤城移動教室～3年生に向けて～

2年生は、11月21日（火）～23日（木）の2泊3日で群馬県前橋市にある国立赤城青少年交流の家にて、宿泊行事を行いました。

○雄大な自然に接することにより、自然を愛する気持ちを育てるとともに、人間は大自然の中では無力であることを知り、その中でも困難や逆境を乗り越えようとする知力や胆力を養う。○自主的な集団生活を通して、協力する大切さやルールを守る態度を育てる。○中学校生活の折り返しにあたり、先生と生徒、生徒相互の人間関係や友情をさらに深め、3年生に向けての心構えを育てる。○SDGsへの理解を深め、積極的に取り組む態度を育てる。これら4点を意識して取り組みました。プロジェクト委員会委員長の言葉には、「楽しむためにも全員でマナーを守っていくことも必要だと思います。共同生活の中で、自分勝手な行動をすれば、学年全体に影響が出ることもあります。一人一人が周り考えた行動ができるようになるのも今回の目的の一つです。学校を背負って赤城に行くことを頭に入れて、これからお世話になる方々に素敵な学校だと思ってもらえるような行動を心がけましょう。

また、先生方や保護者の方々、私たちに受け入れてくれる赤城の施設、お店の方々など、多くの方々がこの赤城移動教室実現に向けて尽力してくださいました。その方々への感謝の気持ちを忘れずに、最高の移動教室をつくりあげましょう。（一部抜粋）」としおりに書かれていました。3年修学旅行に向けて良い経験ができました。



認知症サポーター養成講座を実施しました

12月8日（金）、第1学年の生徒を対象にした認知症サポーター養成講座が行われました。この講座は厚生労働省が推進している事業の1つで、認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする

「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組むことを目指しています。今回は、渋谷区笹幡地域包括支援センターに勤務されている児玉信剛さんを講師に招き、パワーポイントのスライドや動画を交えながら学習しました。様々な原因によって脳の細胞が死んでしまったり働きが悪くなったりするため、障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態のことを「認知症」といいます。認知症の原因となる病気の中には早期に治療すれば治せるものもあります。講座を終えて、第1学年学級委員会委員長の新井颯太さんが1年生を代表してお礼の言葉を述べました。認知症は誰でもなる可能性のある病気です。他人事ではなく自分たちの問題だと考え、自分たちに何ができるか考えてみましょう。



「シブヤ未来科」のまとめ

1年生の総合的な学習の時間では2月に控えている職場体験学習に向けて、「はたらくこと」について学習活動を進めています。これからマナーや自分たちが訪問する事業所について調べていくことになります。

2年生では、先日実施した赤城移動協教室の事後学習を進めています。現地で体験できたことをもとにタブレット端末を使用してまとめ新聞を作成しています。

3年生は、これまでの3年間の学習の集大成として、自分たちで渋谷区をデザインし、新しい渋谷区について学習活動を進めています。シミュレーターを用いて、自分たちの渋谷区を可視化できるようにタブレットを使用しています。

令和6年度から総合的な学習の時間を探究「シブヤ未来科」としてスタートします。他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったり、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりする探究を進めていきます。

